

オランダ・水資源保全プロジェクト “キッコーマン風車”と水質浄化への取り組み



1990年代、オランダ・フローゲンニン州で二番目の大きさを誇る淡水湖・ザウドラーデル湖は、水質の汚染が深刻化。大切な水源でもある湖の周辺では、以前はよく見られた魚や小動物、野鳥などの数が減っていきました。それらの問題を解決するためには、「貯水量の管理」「水質の浄化」「生態系の復帰」が必要でした。そして、環境保全団体(Stichting Het Groninger Landscape)が中心となり、この水質改善プロジェクトは、ヨーロッパ共同体、オランダ政府、フローニンゲン州、ホーヘザンド・サッパメア市、WXF(WWF関連団体)などによって支援されスタートしたのです。

1997年、環境保全団体からオランダの現地法人キッコーマン・フーズ・ヨーロッパ社(以下KFE)へプロジェクトの協力要請がありました。そしてKFEでは、「自然との調和」「地域社会にとって存在意義のある会社へ」の経営理念の元に、メイン

スポンサーとして参加したのです。

プロジェクトのメカニズムは、この資金で導入された風車(キッコーマン風車)で湖水を汲み上げて隣に設けた広大な水質浄化エリアに移し、そこに住む水生生物や微生物などの働きで湖水を徐々に浄化して、再び水に戻していくというものです。オランダは、もともと海拔が低く、長い歴史をかけて堤防やダムを建設し、治水に取り組んできました。しかし、この水質浄化プロジェクトは、これまでの施策をあらため、かつて干拓した土地を再び湿地帯に戻すというもの。貯水力を高めるとともに、自然の力を利用する風車により水を還流させ、生態系を復元させようとする取り組みです。

10数年経過した今、その効果は少しずつ改善の兆しを見せ始めています。

